

13. 急性扁桃腺炎検出菌の検討（抄録）

西澤芳男（豊中市）

【目的】急性扁桃腺炎は粘膜局所感染防御機構の破綻に起因し常在菌叢バランスの変化が重要因子と考えられる。健常者症例局所常在菌と急性扁桃腺症例を比較検討した。

【対象と方法】1997年5月20日～2000年5月19日の3年間に受診した急性扁桃腺患者43例（ 27.4 ± 10.2 歳、男：女=20：23）（A群）、健常者40例（ 28.5 ± 11.8 歳、男：女=19：21）（B群）より綿棒で扁桃腺より得た菌を培養菌数、感受性などを検討した。

【結果】①A群では *S. aureus* *S. pyrogenes*、*H. influenza* などが有意に多く②A群では *S. aureus* の有意増加を認めた。③MRSAは少なく '88～'91の3年間に比較し有意の増加はなかった。④ '88～'91の3年間に比較し耐性肺炎球菌は増加した。

【考察】急性扁桃腺局所にMRSAが少ない理由とし、ステロイド投与例、siccasyndrom例などの比較検討結果から考察する。